

題字・山下太郎名誉教授

静岡大学文理・人文学部同窓会

発行人 ■鈴木基之

編集人 ■岳委員会

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836 静岡大学共通教育A棟

Tel.054-238-5148 Fax.054-238-5148

Web Site: <http://www.gaku.org>

### 〈事務局への連絡〉

月曜日から金曜日の10:00～16:00にご連絡下さい。  
(休日、時間外はメール及びFAXにてご連絡下されば、  
後で対応いたします)

担当:土屋

## 静岡大学法科大学院支援協会より ご寄附の状況報告とご寄附のお願い

法科大学院支援協会事務局長 山脇貞司

静岡大学法科大学院の教育支援及び大学院学生の奨学制度創設を中心に、昨年12月から寄附活動をスタートさせ、平成22年3月まで5年間で7,000万円を集めることを目標に取り組んでおります。1月には、同窓会誌「岳42号」の同窓会会員への配付の際に「寄附のしおり」も同封させていただき、多くの皆様方のご厚志をいただきました。ここに改めて御礼申し上げます。現在、静岡大学がお受けした寄附件数は246件、寄附額は1,200万6,000円となっております。目下、9月30日を第2次締め切りとして3,000万円の寄附を集めることを目標に活動を進めております。同窓会誌「岳43号」が同窓会会員の皆様方に送付される際にも、前回同様、新たな装いを凝らした「寄附のしおり」が皆様方の手元に届くことかと思っておりますが、いまだご寄附をいただいております方には何卒、既にご寄附をいただいている方にも引き続きご支援いただきますよう心からお願ひ申し上げます。

なお、本支援協会は、静岡県商工会議所連合会会長の神谷聡一郎を理事長とし、県下の各界の方々によって構成されている静岡大学法科大学院支援団体であることを申し添えておきます。



## 終身会費納入のお願い

副会長 落合康彦

・納入用の郵便振替用紙が同封してあります。  
・納入済みの会員には、岳送付用の封筒に貼られた宛名シールの会員コード(明朝体、斜体)の最後にPマークが入っております。Pマークが入っていない会員が未納ということです。ご確認ください。

例:1234S58P

## 友よ、静岡で再会しよう！ 平成17年定例総会開催

副会長 小林五郎

静岡大学が独立法人化されてから一年有余、今年の4月には念願の法科大学院も開校しました。大学も同窓会も大きな節目を迎えております。この重要な節目の年に定例総会を開催し、当面する方針を決め新しい役員を選出します。

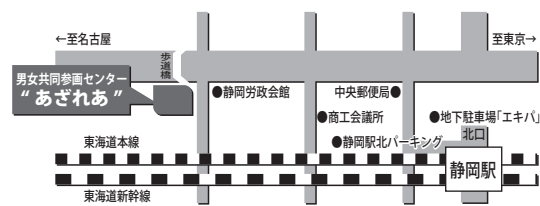
同窓生の皆さん、現状を報告しあい大学の将来や同窓会のあるべき姿を熱く語り合おうではありませんか。今や、同窓会は大学にとり大切なパートナーです。そして大学を存続させ、より発展させるためにも同窓会は重要な存在になってきております。

同期生や知人を誘いあって積極的に参加しよう！今、母校はあなたの力を求めています。



★日時 平成17年11月12日(土)  
13時～17時  
★会場 あざれあ(地図参照、元婦人会館)  
★内容 総会 13時～14時  
講演会 14時～14時45分  
懇親会 15時15分～17時  
★会費 3,000円(当日徴収)

参加者は、10月中旬までに同窓会事務局まで、  
電話かファックスでご連絡ください。  
同窓会事務局 電話 054-238-5148  
FAX 054-238-5148



## 静岡大学法科大学院 設置記念式典 “知事、市長ら熱い期待”

副会長 三島文夫

静岡大学法科大学院設置記念式典が5月28日、静岡市南町のホテルセンチュリー静岡で開かれ、塩谷文部科学副大臣、石川静岡県知事、小嶋静岡市長をはじめ、国会議員、弁護士、大学院生など約150人が出席した。

関係者からは、多数の合格者を期待しているとの言葉が寄せられた。

学長挨拶、来賓祝辞等の要旨は、次のとおり。

○天岸静岡大学長

「法学部が無い大学で法科大学院が設置できたことは、素晴らしいことである。信州大や横浜国大もそうであるが、例が少ない。また、大都市である東京と名古屋の間で設置できたことも極めて意義が大きい。県の政界、財界、弁護士会ほか多くの方々のおかげである。真価が問われるのは、これからである。これまで以上の御鞭撻をお願いする。」

○大江法科大学院長

「17年度の入学者数31人、その内静岡出身7人(人文学部法学科3人、経済学科1人、農学部1人、工学部1人、情報学部1人)。最高齢者54歳。全員3年課程に入学。実質倍率2.8倍。東京からのUターン者が多い。」

- ・男女比 男77.4% 女22.6%
- ・出身学部 法学系51.6% その他文系32.3% 理系16.1%
- ・新卒・既卒の別 現役4年生45.1%
- ・現役4年生を除く20歳代32.3%  
30歳代12.9%  
40歳代9.7%

・出身高校 静岡県内48.4% 県外51.6%

○塩谷文部科学副大臣

「これからの重要である。できるだけ多くの合格者を出していただきたい。」

○石川静岡県知事

「静岡県に欠けている機能が3つあった。1つは、法律の専門家を養成する機関、法学部がなかった。今回、法科大学院ができた。2つめは、政令市がなかった。全国で輝いていくためには、政令市が存在しなければならない。これも4月1日に静岡市になった。3つめは、空港がないこと。そのうちできる。今後の飛躍の基盤が整うことになる。行政をやっていく上でも、

法律知識がないとどうしようもないという状況になってきている。弁護士の方に何かにつけて相談していかないと突破できなくなってきた。人材の輩出を祈念している。」

○小嶋静岡市長

「正義と善を考えて行政をやる必要がある。条例制定など法律の専門知識が必要。市でも政策法務の担当職員を置いている。政令市になるとますます必要になってくる。地元で法科大学院ができて期待している。多数の人が合格してほしい。」

○上川衆議院議員

「やっとのことで法科大学院が誕生した。大きく育てていてもらいたい。合格したら静岡に残っていただいて頑張ってもらいたい。」

○三井静岡県弁護士会会長

「非常な難産であった。各界の協力でここまで来た。商売敵を育成していくことになるが、今後に期待している。基本的人権の擁護、社会正義の実現のために頑張ってもらいたい。」

○小林法科大学院生代表

「善と正義は、我とともにあり。弁護士となって静岡の地に根付いていきたい。」  
○鈴木文理・人文学部同窓会会長  
「3年後、100%合格して、本当におめでとうと言われる法科大学院になってほしい。同窓会も応援していく。」





# 静岡大学法科大学院の現在

法科大学院長 大江泰一郎

静大文理・人文学部同窓会の皆様、『岳』紙上では初めてご挨拶します、大江泰一郎でございます。人文学部では比較法文化論と法社会学を担当してまいりましたが、本年4月に開設された大学院法務研究科(法科大学院)の科長(院長)に就任いたしました。よろしくお願ひ申し上げます。

本学法科大学院の開設にあたりましては、同窓会の皆様のもとに心のこもったご支援をたまり、法廷教室、院生自習室など、院生の教育・学修環境の充実のために役立てることができ、また「静岡大学法科大学院奨学金」の制度を創設し、院生への経済的支援も拡充することができました。あらためて厚く御礼申し上げます。とりわけ、24時間対応の個人専用席(3学年分、全90席)を備えた自習室を作ることができたことは、少人数教育の実をあげるためにも、きわめて有利な条件となることと存じます。

法科大学院は、ご承知のように、昨年・今年合わせて全国で74校が設立されました。総合大学とりわけ文科系の学部をもつ大学では、この法科大学院が大学全体の水準ないしステータスを示すいわば戦略的な課題として、国公私立の別なく取り組まれてきた構想であることがここにも表れております。卒業生・同窓会の方々からもよくお聞きしたことで、静岡大学では法科大学院設置はちょっと難しいのではないかという声もあるなか、率直に申しまして、私ども自身としても、よくここまで来られたという感慨もないわけ



はありません。しかし、静岡大学は、すでに70余名の実務法曹を社会に送り出してきた伝統があり、また近年では毎年3~4人の司法試験合格者を輩出しているという実績もあって、受験界ではすでに少なからず有力な地位を占めていることも確かるところでございます。この伝統を受け継ぎさらに発展させることが、私ども法科大学院教員スタッフに課せられた責務であると考えております。

こういった状況のなか、私どもとしては、「地域と連携し、地域に貢献する」を設立の理念として、日本全国どこでも活躍できる能力をもつと同時に、“Think globally, act locally”の標語を合い言葉として、地域に根ざした法曹を育てる教育を進めているところでございます。そもそも「法科大学院」という新たな教育機関は、従来の司法試験一発合格だけを目標とするいわば「点」の制度から、3年間の教育課程という「プロセス」を重視する法曹養成の場をめざすものであり、単なる受験技術を伝授するにとどまらず、高度な実務能力と高い志をもった実務家を育てることが求められております。私は、この高い気概をもった法曹に育ててほしいという願いを、ギリシア古哲の「善と正義は我とともにあり」のこぼ(エウリピデス)に託して、この4月、新入生の諸君に送りました。もとより法科大学院の真価は、静岡大学の場合にかぎらず、結局は今後の司法試験の合格率に示されるという面を否定することはできません。私どもは、本格的なしごとをまさしくこれからの教育の実績にかかっているという自覚を新たに、居住まいを正しているところでございます。

同窓会の皆様には、今後とも静岡大学法科大学院を見守っていただき、引き続きご支援とご指導ご鞭撻をたまわりたいと願ひしております。どうかよろしくお願ひ申し上げます。

## 今年も定期総会開催の年

同窓会長 鈴木基之

皆さんが学んだ地、静岡市は平成15年春に隣の港町清水市と合併して人口70万人都市となりました。2年後の今年4月には全国で14番目の政令市となりました。

旧静岡市はJR東海道線をはさんでほぼ南北分割の区制が敷かれて旧大岩校舎(現在の城北公園)は葵区に、現大谷校舎は駿河区に区分されました。

静大も国立大学法人となって2年目を迎え、学内改革をすすめながら教育・研究機関としての役割を果たそうと懸命であります。グローバルな観点はもちろん必要ですが、地域としては政令都市に相応しい内容充実した大学が期待されております。

文系では、今年開校した「静大法科大学院」が目玉です。静岡県弁護士会が全面的にバックアップしてくれております。この大学院の成否が「法学科」だけでなく今後の静大文系学部全体の評価につながってくると考えます。立派な人財を世に送り出し優秀な学生を集めることが、他学科にも良い影響を与えて全体のレベルアップになっていくことでしょう。当同窓会も「法科大学院」の成功を期し「静岡大学法科大学院支援協会」の一員として応援しているところです。会員の皆さまにも引き続き絶大なるご支援・ご協力をお願いする次第であります。

理系では、文科省のCOEに採択された「ナノビジョンサイエンス」に基づいた「静大理系大学院の再編」に取り組んでおります。これについては、同窓会「浜松工業会」が主体となって大学と共同して支援体制を組むこと

なっています。さらに教育学部改革では「専門職大学院」構想も検討されようとしております。国立大学改革が緒についた中で、母校「静岡大学」が発展するように、同窓生が支援していくことがますます重要となってきました。

### 総会

本年は4年に一度の定期総会の開催年です。本部役員の改選はもとより、同窓会員の活動・連携、名簿の扱い、組織・規約改正等やらなければならないことが、まだまだ沢山あります。11月12日(土)には是非ご参集していただき議論をしていただけたらと願ひしています。同窓生が一同に集い旧交を暖め、語り合って、皆で何かをすることも同窓会活動のひとつではないでしょうか。

### 名簿

4月にいわゆる「個人情報保護法」が施行されました。同窓会名簿の管理が重要な課題となってきました。これからは名簿を発刊しない企業や団体も出てきましたが、同窓会活動は名簿無くしては成り立ちません。会員からもご意見を頂戴し、前回の拡大役員会でも議論が交わされました。「組織として法を遵守する中で、同窓会会則第3条(目的)『この会は、会員相互の親睦と向上を図り、併せて母校との関係を親密にすることを目的とする。』の趣旨を充分理解して、これに則り、個々の会員が自己の責任において会員のみが利用する。」ということになりました。会の目的以外、ならびに会員以外での使用については絶対にしないよう名簿の取り扱いについてはご注意願ひいたします。

### 17年度事業計画

「法科大学院支援」「総会の開催」の他、「小集団活動費の利用促進」「学生会員への応援」「会員の絆・連携制度の充実」「旧制静岡85周年記念事業(平成19年5月東京開催)への支援」を行ってまいります。

### 財政

年々事業が拡大していく一方、会計報告にありますように「終身会費」納入率が悪化しております。このままでは早晚、財政破綻が

## 法人化2年目にあって— 新人文学部長のあいさつ

人文学部長 松田 純

山本義彦前学部長の後を引き継ぎ、本年4月1日より人文学部長を務めさせて頂くことになりました。じつはわたし自身も人文学部人文学科哲学専攻の卒業生(旧姓:山崎 純)です。旧制静岡高校の伝統を引き継ぐ仰秀寮の悟寮に入寮し、昭和44年仰秀寮の解体を目撃した「歴史の生き証人」でもあります。同窓の学部長として、同窓会と学部との連携を一層緊密に行きたいと願ひしておりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

### 法科大学院開設

文理学部・人文学部はこれまでも約70名にもものぼる法曹家を輩出してきました。こうした実績をふまえて、本年4月、多くの困難を乗り越えて、法科大学院を開設することができました。これは同窓会や地域のみならずの厚いご支援と多大なご尽力のお陰です。ご協力に改めて厚く感謝申し上げます。

5月28日ホテルセンチュリー静岡におきまして、静岡大学法科大学院設置記念式典ならびに祝賀会が挙行されました。塩谷立・文部科学副大臣、石川嘉延・静岡県知事、小嶋善吉・静岡市長、衆議院議員8名をはじめ多数の来賓を招いて盛大に行われました。同窓会役員のみならずにもご列席頂き、まことにありがとうございました。法科大学院1期生31名のうち20数名も参加し、「善と正義は我とともにあり」の精神をもって法曹家をめざすという熱い決意を語りました。

法科大学院は人文学部法学科から20名近い教員が異動し、静岡大学法務研究科(博士課程に匹敵)として独立組織となりました。詳しくは大江泰一郎・初代法務研究科長の記事をご覧ください。

法科大学院設置という大きな課題を成し遂げたあと、人文学部としては文系の博士課程設置と、社会に分かりやすい形での学部の再編という課題に取り組んで行くこととなります。いずれも国立大学法人静岡大学第1期中期計画(6年間)に盛り込まれている課題です。

### 大学の基本の使命

組織改革というハード面の課題とならんで、学部や研究科に在籍する学生をどう育て上げていくかというソフト面の課題があります。社会の各分野で活躍できる有為な人材をしっかり育て上げていくことが大学としての基本の使命です。国立大学が法人化され競争的環境のなかに置かれたいま、この基本的使命を着実に遂行することこそが大学の価値を高めていく道です。人文学部は、法人化された昨年4月1日付けで「静岡大学人文学部学術憲章」を定めました。これはいわば人文学部の憲法です。このなかで旧制静岡高校、文理学部、そしてこれまでの人文学部の伝統を引き継いで、新しい時代にふさわしい「知と学びの拠点」とすべく、教育と研究のそれぞれの目標を掲げ、それらの目標を達成するための基本姿勢を謳いました。現在この憲章に即してさまざまな取り組みを展開しております。

平成18年度から新カリキュラムを導入するための作業を進めています。かつて教養教育は教養部にお任せという形態でした。教養部廃止後、全学の教養教育委員会という組織

起きかねません。同窓会活動を活発魅力あるものにしていくことが大切です。同窓会活動への参加をお願いするとともに、「終身会費」未納の方には納入にご協力をお願いする次第であります。

再度、お願ひします。11月12日の総会にご出席いただきたい。皆さんで同窓会のあり方を語り、旧交を暖め、会員の絆を強めて参りましょう。

が教養教育を設計し統括してきました。しかしながら人文学部で展開されている教育は総体として幅広い教養を身に付ける面ももっています。来年度から人文学部のスタッフでやれる範囲の教養教育は学部の主体性で展開することに致しました。自然科学系の科目、外国語の基本などは全学共通科目で履修しますが、それ以外は人文学部の専門的教育と教養教育を結合して、4年間一貫の教育体系を人文学部カリキュラムとして提供します。それを担うに十分な多彩な知的資源を人文学部は現に有しています。この多彩な知的資源を活かした総合的知の戦略を展開するというのが来年度カリキュラム改革の目玉です。

### <臨床型>教育の実践

人文学部学術憲章はこう謳っています。「学生自身が“学びたい”という欲求にもとづき、能動的に学習できるよう努める。その一環として、実社会を体験しながら学び、地域に学び現場で考える<臨床型>思考を重視する」。

これについての取り組みをご紹介致します。「生きた“知”の発見、地域社会を“歩き学ぶ”フィールドワーク実習

今日の若い学生諸君は便利な生活環境や親の手厚い世話のもとで暮らしてきたため、自然の現実や社会の現実とじかにぶつかる体験が少ない、とよく言われます。切実な体験が希薄ななかでは切実な問題関心も芽生えません。そこで、現実社会とじかに向き合い、そのなかから問題を発見し、それを解決する手立てを模索するという体験型・問題発見型の学習プログラムを導入致しました。フィールドワーク実習という科目です。学生諸君がキャンパスの外へ出て、町内会や行政や福祉施設、文化遺産や文化施設、会社や工場などを訪問し、それぞれがかかえている問題を調べ、問題解決の道を探ります。1年生の秋から始めます。学生諸君は「なぜ学ばなければならないのか」を考え、勉学の必要性を実感します。またそこから地域社会と大学との連携も始まります。人文学部のこの取り組みは大学全体にも影響を与え、静岡大学として申請した文部科学省特別教育研究経費「フィールド・ワーク教育推進事業費」(平成17-18年度)が採択されました。今年度2,000万円余の予算措置がされ、全学的に取り組んでいます。

### インターンシップ

学生諸君がある期間、企業や自治体などで研修生として働き、自分の将来の仕事に関連ある就業体験を行う制度、インターンシップは急速に広がってきています。人文学部は早くからこれに取り組んできましたが、昨年度からこれを学部の単位と致しました。学生諸君は実際の職場を体験することによって、仕事に対する理解が深まり、実社会への適応能力が身につきます。社会に出たら何が必要になるかを知ること、大学で何を学ぶべきかが明確になります。これを就職活動開始前に行いますので、自分の将来ビジョンが明確になり、進路決定・職業選択の上でも大変参考になります。学生と企業とのいわゆるミスマッチを解消するための制度としても期待されて



います。人文学部としては実習先をさらに拡大するなどして、これへの参加率を高める努力をしています。

### 学生発表会

従来の大学教育は講座やコースごとに区切られ、横の連携もなく、互いにどんな教育がなされているのかわからず、相互に干渉もしないというのが常識でした。もうこういう「常識」は通じません。昨年度から年1回それぞれの学科で、学生が学んだ成果を発表しあう発表会を開催しています。学生・教員が参加して、発表を聞き、質問、批判、討論を行い、

その成果を冊子にまとめています。これも、学生は教育を一方向的に受ける受動的存在ではなく学ぶ能動的主体であるという人文学部学術憲章の精神を実践する試みの一つです。

以上、最近の取り組みのなかから紹介させて頂きました。わたしたちは社会に有為な人材を送り出すという大学の使命に応えるべく、努力して行きたいと思ひます。同窓会のみならずまにはこれまでにまして、フィールドワークやインターンシップへのご協力、学生の就職にあたってアドバイスや支援等に一層のご協力頂きますようお願い申し上げます。

## 会計報告

### 平成16年度会計報告

期間 平成16年4月1日～平成17年3月31日					
会計 落合康彦(人文13)					
監事 大橋昭夫(人文2) 小川利春(人文5) 早川登上(人文9)					
単位:円					
	勘定科目	決算額	予算額	増減	摘要
収	終身会費	7,320,670	10,000,000	-2,679,330	新入生343名、既存会員28名
	名簿売上代金	464,890	60,000	404,890	名簿88冊
	貯金利息	1,718	2,000	-282	定期預金・普通預金
	総収入	0	0	0	
	運営基金取崩	0	0	0	
入	小計	7,787,278	10,062,000	-2,274,722	
	前期繰越金	3,005,494	3,005,494	0	
	合計	10,792,772	13,067,494	-2,274,722	

	勘定科目	決算額	予算額	増減	摘要
支	総会費	0	0	0	
	会議費	176,627	150,000	26,627	
	交通費	265,730	250,000	15,730	
	印刷費	2,294,316	2,200,000	94,316	「岳」二回発行
	通信費	2,157,726	2,000,000	157,726	「岳」郵送料
	名簿諸費	793,506	1,500,000	-706,494	データ再入力・発行・配送
	支部補助費	1,200,330	2,000,000	-799,670	基本・人数割補助、郵送料補助
	大学関係費	252,535	300,000	-47,465	研究補助金
	小集団活動	181,780	200,000	-18,220	9件
	全学同窓会	315,485	500,000	-184,515	
	運営基金	0	0	0	
	事務所費	1,851,762	1,800,000	51,762	人件費・事務用品費
	諸支出	267,331	200,000	67,331	新聞会・祝儀
	小計	9,757,128	11,100,000	-1,342,872	
		次期繰越金	1,035,644	1,967,494	-931,850
	合計	10,792,772	13,067,494	-2,274,722	

### 平成16年度貸借対照表

平成17年3月31日現在

単位:円			
借方		貸方	
科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	17,035,644	未払金	0
普通預金	6,814,098	負債計	0
定期預金	10,000,000	(正味資産の部)	
未収入金	88,380	積立金	16,000,000
立替金	133,166	運営基金	16,000,000
固定資産	0	剰余金	1,035,644
敷金	0	固定資産	0
		本年度剰余金	1,035,644
		正味資産計	17,035,644
合計	17,035,644	合計	17,035,644

### 財産目録

平成17年3月31日現在

単位:円		
摘要	金額	
(資産の部)		
流動資産		
普通預金(しずおか信用金庫 No.1009195)	432,263	
( " " No.151796)	5,830,271	
( " " No.195831)	551,564	
( 郵便局 No.56867)	0	
( " " No.105137)	0	
定期預金(しずおか信用金庫 No.431277)	10,000,000	
未収入金(平成16年度入学生終身会費分)	88,380	
立替金	133,166	
固定資産		
敷金(本部事務所)	0	
	資産の部合計	17,035,644
(負債の部)		
流動負債		
未払金	0	
	負債の部合計	0
	差引正味財産	17,035,644

### 平成17年度予算案

期間 平成17年4月1日～平成18年3月31日

単位:円					
	勘定科目	予算額	前年度予算額	増減	摘要
収	終身会費	10,000,000	10,000,000	0	新入生450名、既存会員50名
	預金利息	1,500	2,000	-500	定期預金中途解約
	名簿売上	60,000	60,000	0	3000円×20部
	総収入	300,000	0	300,000	
	法科支援協会	204,000	0	204,000	人件費
入	運営基金取崩	7,000,000	0	7,000,000	模擬法廷、北陸支部設立
	小計	17,361,500	10,062,000	7,299,500	
	前期繰越金	1,035,644	3,005,494	-1,969,850	
	合計	18,397,144	13,067,494	5,329,650	
支	総会費	500,000	0	500,000	
	会議費	150,000	150,000	0	
	交通費	250,000	250,000	0	
	印刷費	2,400,000	2,200,000	200,000	「岳」発行、宛名シール
	通信費	2,200,000	2,000,000	200,000	「岳」郵送料
	名簿諸費	1,000,000	1,500,000	-500,000	学生名簿送付、終身会費登録
	支部補助費	2,500,000	2,000,000	500,000	北陸支部設立
	大学関係費	5,600,000	300,000	5,300,000	模擬法廷、研究補助費、奨学金
	小集団活動補助金	200,000	200,000	0	
	全学同窓会	100,000	500,000	-400,000	
	同窓会運営基金	0	0	0	
	事務所費	1,800,000	1,800,000	0	人件費ほか
	諸支出	200,000	200,000	0	
	小計	16,900,000	11,100,000	5,800,000	
		次期繰越金	1,497,144	1,967,494	-470,350
	合計	18,397,144	13,067,494	5,329,650	

※科目間の流用を認める

## 第16回静岡大学悟寮会静岡で開催さる

文理5法 竹本章

悟寮生常宿のマイホテル竜宮(静岡市葵区伝馬町)で04年9月18日(土)、静岡大学悟寮会が盛大に開催された。最近では仰秀寮の他の4寮(魁・映・穆・不二)もそれぞれ活発に会合を催されているようだが、昭和50年に発足した悟寮会は今回、16回目と最多である。これまで画期的な行事を積み重ねてきた歴史の重みを感じる。

仰秀寮のシンボルである茂木(田辺郁子)さん、クリメチさんの小和田さんを加えた出席者30名は、開会に先立つ冒頭、物故者の在りし日を偲び黙祷をした。前回以後の2年間に5名の会員が亡くなっていることに驚きを感じると同時に、健康の大切さを改めて認識するところである。

コンテンツは前回と同様に懇談会を第1部とし、ワークショップのように口の字型に着席した出席者が、各自3分以内で近況報告した。制限時間を大きくオーバーする熱弁もあり、情報交換と相互理解ができたことはよかった。

第2部の懇親会では、第1部で意見発表が不十分だった者が壇上に出て持論を講じ、またその意見に関連する発言者が登場するなど、議論沸騰した。

アトラクションとして、珍しく出席した悟寮コーラスのコンダクター加藤一十三氏(文理6法)のハーモニカ演奏があった。50年

経つ今日でも音楽への情熱を持続する姿に感銘した。ただ事務局の尽力で準備し配布されたかつての練習曲、J.シュトラウス「美しく青きドナウ」の楽譜で合唱する青春再現が幻となったことは、残念至極というほかない。

フィナーレは恒例の仰秀寮代表寮歌「地のさざめごと」の大合唱で幕を閉じ、次回での再会を約して散会となった。続いて宿泊者を中心とする二次会が和室に移して行われ、それぞれに議論が深夜へと続いた。

古き良き同志の会合を通じて思うに、過去の追憶に浸って満足するだけでなく、これからの人生を如何に価値あるものにすべきか、社会に如何に貢献できるか、社会的な課題の認識が重要である。それには健康であることが必要条件である。健康であるためには、良き生活習慣が裏打ちされる。次回は高齢者のための医学セミナーを開催できればと考えている。大方の出席を期待したい。(悟寮会会長)

### 《物故者》

赤羽 康伸(8法)03年6月

渡辺 泰通(5法)03年7月

野田 和男(4工)04年5月

田口 巖(10法)04年6月

広瀬 重夫(10法)04年8月

(いずれも文理)



## 第6回「全国魁寮会」盛大に開催される!

文理8法 加藤秀臣

平成17年5月26・27日にわたって、全国魁寮会を愛知県の猿投温泉で開催した。全国魁寮会は、平成3年に東京で、それ以降は静岡市で開催されてきたが、今回は東海地区の魁寮の会が担当となり、「万博が開かれる年に、その見学を兼ねて開催しよう」ということになったのである。

来賓として、旧制静高時代に魁寮で過ごされた土屋公献・森明彦・市村平一郎の各先輩、同窓会東海支部の宮道佳男支部長、元寮の事務管理をしていた田邊(旧制茂木)郁子さんをそれぞれお招きし、魁寮生以外の寮生2名を加えて、総勢51名の人々が全国から参集して、過去最大の会となった。

なにはともあれ、まず温泉に入ってから、加藤秀臣(8回卒)、和田孝宣(12回卒)の兩名の司会で懇親会を開始し、最初に東海地区魁寮の会々長・河合俊孝(2回卒)と懐かしい法被姿の全国魁寮会々長・小嶋清美(6回卒)さんから挨拶があり、続いて来賓の土屋、宮道、田邊さんらのご挨拶、池田順治(1回卒)さんの音頭で乾杯を行った。

歓談となれば、40数年から50数年前にタイムスリップして、若かりし寮生時代に帰り、寮生活や学生運動などの昔話に花が咲い

た。お互いに年をとり、老後のことを考えながら生きているが、時には意気多感な青春時代に戻った話などで盛り上がり、その気概にふれることによって今後の人生の励みになったようだった。隣の部屋から聞こえてきた軍歌に負けじと、土屋・森両先輩の音頭で、仰秀寮代表寮歌「地のさざめごと」、魁寮寮歌「あゝ万象の朝ぼらけ」を始め数曲高らかに歌ったが、久しぶりの寮歌で若かった学生時代に立ち戻り、寮生気分になったのである。最後に水谷達仁(7回卒)から、翌日の万博見学の案内があり、内山賢治(2回卒)の中締めで閉会となった。その後、各自の部屋に会場を移し、旧制静高時代の古い話から、現在の直面している政治・経済・社会問題の話まで、夜遅くまで話は尽きなかったのである。

今回の全国魁寮会の特徴は、16回以外の全ての回の卒業生が参加したことであろう。また、初めて参加した人、比較的若い人(11回卒4名、12回卒4名、15回卒3名)が多かったことだ。記念撮影は、人数の関係から2グループに分けての撮影となった。

翌日は31名の人が愛・地球博を見学した。事務局の鈴木徹(13回卒)と和田の両名から団体入場券を受け取り、会場へと入り、かな



りの人出で賑わっていた中、三々五々、それぞれ好みのパビリオンなどを見学して、帰途ついたのである。



## 東京支部

### 第24回東京支部総会

東京支部長 福岡 厚(文理7法)

第24回東京支部総会は2005年6月10日(金)午後6時30分から東京ステーションホテル「松の間」において開かれた。来賓として松田純人文学部長を始め多くの方々が御出で下さった。

司会は昨年に引き続き中溝浩兄(文理8経)。支部長挨拶の後、来賓の御挨拶を戴く。

先ず旧制静岡高等学校同窓会長土屋公献氏。元日弁連会長として御多忙の氏は、他の会合の合間を縫って駆け付けて下さった関係上トップに登場して戴く。旧制静岡高は昭和26年卒業の26回生が最後で会員は年々減る一方だが、静岡大学は創立以来既に55年、益々発展され心強い限りと熱いエールを送られる。

続いて松田人文学部長。国立大学法人として一年経過、市民への大学開放も軌道に乗り大学の持つ知的資源を社会に還元しつつあると語られる。因に松田先生は人文4回哲学の御出身である。

次に大江泰一郎法科大学院長。法科大学院は本年4月1日設置、7日入学式。一年生30人。3年で90人の少数精鋭。施設も充実し、学生は三年後の試験に全員合格を目指し勉学に励んでいるとのこと。是非そうあってほしいものである。

鈴木同窓会長からは会の活動状況、今後取り組むべき課題につき詳細な報告がなされる。

議事に入り、①平成16年度事業報告及び平成17年度事業計画案、②平成16年度会計報告及び平成17年度予算案を承認。③今後の東京支部の活動については役員人事を含め幹事会一任を了承して議事を終了。懇親会に入る。

乾杯の発声は弁護士の森有子さん(文理4法)。静大法曹の草分け的存在で、近年は国の

各種委員等を務めておられる。御息も同業にて、最近新しい仕事はそちらに移行しつつある由。

会の盛り上がる中、来賓の御挨拶を戴く。五年ぶりの河中二講先生。変わらぬ御温顔である。多くの懐かしい顔に会えてよかったですと楽しげな御様子。

毎年御出席下さる金森誠也先生はお元気そのもの。今回はヴェルナー・ゾンバルトの訳書『恋愛と贅沢と資本主義』(講談社学術文庫)を当支部に御寄贈戴く。

続いて愛野明宣静岡大学常勤監事、石神政一静岡支部長、宮道佳男東海支部長、岩本平関西支部長から夫々近況報告がなされる。欠かさず御出席の田邊郁子さん。「明日の東海支部総会には這ってでも・・・」に一際大きな拍手が湧く。

賑やかな交歓の中、最年少の北村聡君(人文28法)がワングル参加を呼び掛け、堀江析而兄(文理4経)が所信を披瀝する。時間が瞬く間に過ぎ、寮歌「地のさざめごと」の斉唱に移る。序詞は日下民夫兄(文理6法)。各人紅顔の少年に戻り心をこめて歌う。最後の締は遠藤栄兄(文理1仏)。「最近よく夢を見る。それが大学を卒業できない夢で・・・」一同の頬が弛み目出たく終了。

なお東京駅が歴史的建造物として明春から復原工事(オープンは2011年春の予定)に入るため当会場での開催は今回が最後となった。一抹の淋しさを覚える。今回の参加者数は文理40(工進6を含む)、人文2、来賓11を加えると辛うじて50人を越え、昨年を上回ったものの、人文の諸君の参加に課題を残した会であった。



## 東海支部

### 第11回東海支部総会が開催されました。

人文14法 水野裕之(東海支部副支部長)

平成17年6月11日(土)午後2時30分から、名古屋駅前・名鉄グランドホテル18階の中国料理「涵梅舫」において、東海支部の第11回支部総会が開催されました。

大学から松田人文学部長と山脇教授、同窓会からは鈴木同窓会長ほか各支部、浜松工業会愛知支部の代表の方々、そして元職員の田邊郁子さんをお招きし、約60名の同窓生の参加で、大変盛り上がった会となりました。

同窓会でも勉強を、ということで、ここ数回講演会を実施していますが、今回は税理士の内信明さん(人文20)に、税制改正についてお話いただきました。年金に対しても課税が強化されるということで、先輩方も大変です。(笑)

講演会のあとが今回の超目玉!清水碩二さん(文理3)の若々しい歌声(シャンソン)で盛り

り上がったところで懇親会に突入しました。

今回は趣向を少し変えて、従来の立食パーティーではなく中華料理の着席方式としましたが、年配(?)の先輩方には結構好評だったようです。毎回毎回何か目新しいことを企画しなければと思いつながら、なかなか実行できませんが、2年に一度の会ですので、お酒が進めば座も自然に盛り上がってきます。特に今のあり方を変える必要はないのかもしれないですね。

なお、今回の総会で、支部長が宮道佳男さん(人文3)から杉浦雅樹さん(人文4)に交代しました。4期8年の長きにわたり支部長の重責を担ってこられた宮道前支部長さん、本当にご苦労さまでした。



### 中電(株)の静岡大学同窓会開催さる!

人文27経 井出千珠子

5月13日(金)、名古屋市内で中部電力株式会社の静岡大学同窓会が開催されました。今回は「駿遠会(すんとおかい)」と名を改めてから初めての会合。新入社員2名を迎え、各地からOBを含む総勢40名が参加しました。新入社員の挨拶は新人らしくすがすがしいもので、改めて私自身も入社当時の初心を忘れず、仕事をしていこうと感じました。

同窓会は、長い間、文系・理系に別かれて会合を開催してきましたが、より交流を深めようと、2年前より年に1回文系・理系合同で開催しています。日頃、社内では部門を超えて交流できる機会が少ない中、回を重ねる

毎に言葉を交わす人が増え、仕事を進めていく上でも大変役に立っています。これからもこのような交流の場を大切にしていきたいと思えます。

現在、愛知県では「愛・地球博」が開催されています。電力10社で構成される電気事業連合会が主催するパビリオン「ワンダーサーカス電力館」には駿遠会の会員2名が出向し、万博の運営を支えています。9月25日までの開催期間中、皆様も是非足をお運び下さい。

## 静岡支部

### 「静岡支部総会開催される」

人文3法 三島文夫

平成17年度の静岡支部総会が、6月4日午後5時から、JR静岡駅南口の東海軒会館において、約50名の会員の出席のもとで行われた。

石上支部長は、挨拶の中で次のように述べられた。「静岡大学が、国立大学法人としてスタートして1年が経過した。公開講演やシンポジウムの開催、市民に開放する市民開放授業の実施など大学の有り様が変わってきた。法人化をきっかけに、大学の持つ知的資源を社会に還元するなど大学と地域社会との連携がより緊密なものとなることを期待している。

この4月、法科大学院が開校した。法科大

学院が優れた教育を展開するための支援事業を行う法科大学院支援協会が設立されたところであり、今後、会員の皆様にも御協力、御支援をお願いしたい。」

来賓として見えられた松田人文学部長は、次のように述べられた。「私も人文学部哲学科の卒業生である。卒業生が学部長に就任したのは、初めてではないか。法科大学院の設置に当たっては、卒業生の多大な御協力を頂き、お礼申し上げる。大学全体で今年受験生は、1,000名減った。18歳年齢が減ってきたからである。危機感を持って対応していく必要がある。フィールドワーク実習、インターン



シップ制度の拡大に努めていくほか、将来の文系の博士課程設置に向けて取り組んでいきたい。」

続いて挨拶に立った鈴木文理・人文同窓会会長は、次のように述べられた。「法科大学院の設置に当たっては、法科大学院を持たない法学部、法学科は、衰退していくしかないのではないかと危惧のもとに、文理・人文同窓会として応援した。今後5年間で7,000万円を法科大学院支援協会に支援していく。今後発行する岳の紙面をお願いしていく。」

11月12日、JR静岡駅前のアザレアで総会を開催する。役員改選、法科大学院の卒業生の同窓会への加入について諮りたい。今後、北陸支部（北陸3県で約400名）の立ち上げに努めていきたい。」



## 熊野古道を行く(第4回)

文理9経 小林五郎

6日目 10月13日

6時15分起床、7時朝食。

食欲全くなし。半分ほどやっとの思いで飲み込み、7時半に外に出た。旧JR線路跡の道を南東に向けて歩き出す。昨夜、泊まり損ねた国民宿舎が美しいので一枚スケッチし、森の鼻岬を内陸側に入り込んで、再び海側に出た。のどかな田舎道を進むと前方にトンネルが見えてきた。このあたりから田辺市になる。芳養王子跡は曲がり角地のこもりした森の中にあり、氏子に大切にされている神社に祀られていた。

最近、都市計画で再整備された元町の商店街を通り、会津川手前を左手に百米ほど入った、山を背にした日当たりのよい場所に小さい赤鳥居があり、その奥に立王子は祀られていた。この近くの江川公園内には塩垢離記念館が立っていて、大正時代に埋め立てられ今は陸地になっているが、当時はこの浜で塩垢離をし、心を新たに中辺路を目指したのである。立王子社には文字通り、いざ立ちせんという決意が込められている。

文献によると、後鳥羽院のお供をしてきた藤原定家は、権別当から立王子社は立派な宿所と聞いて期待してきたところ、あにはからんや隙間風が枕元を襲い持病の喘息発作が出て息も絶え絶えのところを、上司の命で海につかる塩垢離までさせられる始末。哀れとも何ともすさまじきものは宮仕えである。

合津川沿いに1キロ程上流に立派な山門のある高山寺がある。聖徳太子の開創という真言宗御室派の古刹である。山門をくぐると、杉や桧の生い茂る緩やかな石段が続いている。上ったところ正面には古色蒼然とした木肌に白壁のコントラストが美しい二重塔が建っている。奥には本堂、薬師堂、裏の院と続き、江戸後期の再興と思われるがどの建物も立派である。

高山寺から次の万呂王子跡までは街中の道で、途中少し間違えたが10時ごろには万呂王子跡に着く。跡といっても道路脇に粗末な看板が一本あるだけで、横にはたこ焼きの屋台が置かれていて気をつけて見ないと見過ご

来賓挨拶の後、16年度事業報告及び会計報告、17年度事業計画及び予算が諮られ、原案どおり承認された。

その後、同窓生の鈴木ホールディング(株)取締役相談役 遠藤芳伸氏が「清水港の現状と課題」と題して講演を行った。その中で、氏は、「平成16年の貿易額は、2兆6,193億円と全国8位(空港を除く)であること。東名高速から近く、非常に便利であること。中部横断道が開通すれば、港の後背地がうんと広がること。荷役作業を1年365日、24時間フルサポートで行っていること。しかしながら、国内の港(多く作り過ぎた)及び東南アジアの釜山、香港、シンガポール等のハブ港との競争が激しくなっていく。」と述べられた。

神社がある。村人が大切にしている神社なのであろう。境内は塵一つなくきれいに掃き清められていた。

すでに時計は12時をまわり、昼食にしたいがこんなど田舎では食堂もない。広い田圃の中を横切って道は海方向に延びている。上昇気流が発生しているのか先刻から上空できりに鶯が鳴いている。やがて大きな交差点に来て、ここから左折して423米のトンネルを抜けると、富田川の流れる国道に出た。この川の上流を目指す中辺路への入り口、滝尻王子はある。さて、富田川を1キロ程下流に下ったところに、五躰王子の一つに数えられた稲葉根王子宮があるので訪ねてみた。こもりした森の中に、朱塗りの柵で囲まれた小さな祠が祀られていた。神社の中に合祀されているのは別として単独で祀られている王子社は人の背丈ほどでごく質素な祠が多い。

富田川上流には大塔村があり、その奥に中辺路が続いている。中世この川は岩田川といわれ禊の川として知られている。熊野詣の一行はこの川で水垢離をして外界の穢れを祓い、滝尻から霊山の連なる中辺路へと踏み入ったのである。当時は今のように橋はなく歩いて渡ったのである。高貴な女院が渡るときは、お付きが手を引くのは恐れ多く、白布をつなぎ合わせ、その結び目につかまり両側から支えるようにして渡ったという記事が残されている。雨で水かさが増したときはさぞかし大変だったろうと思はれる。

さて今回の旅で一番心ときめくのは中辺路である。何故なのか判らないが、中辺路は山道が40キロにわたって続いていて、その果てに熊野本宮がある。この旅最大の難所でありクライマックスだからなのだろう。昔人もここまで来て、さあいよいよ神の宿る霊山にはいるのだと水垢離をして身を清めて深山に分け入ったのであろう。当時の人々は物見遊山の旅をしている私とは大違いで、信仰心厚く、中辺路から熊野本宮への熱き思いは想像を絶する強いものがあつたと思われる。中辺路という言葉から湧き出てくるこの胸騒ぎにも似た心のときめきは、体内に流れている古人の血のなせる技なのであろうか。

稲葉根王子跡から1,2キロ上流にきた富田川左岸には幅50米、長さ200米にわたりコスモス畑が広がり、秋の日差しを受けて赤やピンクに咲き乱れていて本当に美しい。駐車場にはバスやマイカーが沢山並び、大勢の市民が近在からコスモス見物に集まってきて秋の一日を楽しんでいる。コスモス畑の前には喫茶店があり軽食もあるので少し遅い昼食をとる。胃が弱っているので食欲のそそるキノコ入りスパゲッティを注文。店内はコスモス見物の若いカップルや家族連れで満員だ。

一ノ瀬橋を渡り右岸に行く。ここにもコスモス畑があるが客は一人もいない。花はこちらのほうが若くて美しいのに。道から少し入ったところに一ノ瀬王子跡はあつたが、入り口が判りにくく人に聞いて訪ねてゆくと、大楠の根元の小さい祠に祀られていた。来る途中に「民宿加茂」の看板を見つけ電話番号をメモしておいたので、そろそろ今夜の泊まる所を決めようと携帯で予約を入れるが、あいにく電池切れで使えない。携帯は普段は使っていないのでたまに使おうとしてもこの始末で情けない。直接訪ねるしかない。間もなく加茂橋が見えてきたので加茂荘は橋の名前からしてあの橋の近くにあるだろう。

橋の袂にはグランドがあり、先ほどからボリュウム一杯の行進曲が流れてきていて、最初は小学校の運動会かなと思った。でも、万国旗がなびきマーチが鳴り響いている割には人影が見当たらない。テント一張り見える以外は何もなくて、次第に近づいてみると、お年寄りの運動会らしくあのテントの中に役員も選手も入っているみたい。丁度パンくい競争が始まり、お年寄りが5,6人ヨタヨタと走ってきてパンにかじりついている。「パンは必ず持ち帰ってくださいネ」などとスピーカーから流れてくる。子供たちのようにすばやくかじり取りゴールに駆け込む様子はなく、いつまでもブラリブラリと揺れているパンと格闘

している。噛み付く歯がないんじゃないの?なんて余計な詮索をしながらのんびり歩いていると、いつしか加茂橋を渡りきっていた。

加茂荘は多分この部落の中にあるはずで、少し入ると民宿の看板が見えた。玄関で呼びベルを鳴らすと家の中には人の気配はない。隣に呉服や雑貨を扱う商店があるので入ると、奥からお年寄りの婦人が出てきて「今日は婦人会の運動会があるからそちらに行っていると思いますよ」という。あの運動会のことだ。「それに、今からだと準備もできないから急に頼んでも難しいかも知れないよ」ともいった。「この辺には他に民宿はありますか?」急に不安になり聞くと、「どうか判らないけど、この上の大塔村のおダイジンなら頼めば何とか泊めてくれるでしょう」といって奥のほうから住宅地図を持ってきておダイジンさんを探してくれたが、該当する地図はなく、大塔村の中央に案内所があるからそこで聞いてみてくださいといのこことだった。とても親切にしてください何回も御礼を述べて外に出た。

川沿いの県道は加茂橋からは家がなくて、迫った山際の道を2キロほど進むと大塔村が姿を現した。まだ日は高いが、次の宿がだめだと宿の目途がつかず、今夜はどこかで野宿するしかない。県道から外れて、昔からの村中の道を少し進むと、観光案内所があつた。聞くと、村はずれに農協があり、その手前に「大甚」という旅館があるとのこと。どうか泊まれますように!と、祈る気持ちで村外れに来ると、左側に「大甚」の看板がかかる古い二階屋が見えた。

風雨にさらされガタピシするガラス戸を開けて中に入ると土間があり、大声で声をかけると奥から年老いた主人が出てきた。「今夜一泊させて欲しいのですが」と頼むと、「女房が出かけているが、間もなく帰るでしょう。よろしいですよ」との返事。やれやれこれで一安心だ。ひとまず2階の日当たりのよい部屋に案内され肩の荷をおろす。まだ日が高く、汗もだいぶかいたので上下全部洗濯しようと思ひ主人に洗濯機を頼むと裏口に案内してくれた。乱雑に物が置かれた狭い敷地の一角に2台の洗濯機があり、使わせて頂くことにした。洗濯機の横には薪の風呂があり、「すぐ風呂の用意をしますから入ってください。薪の風呂は同じ水でも違いますよ」と薪風呂のよさを強調した。昔は当たり前だったが今日では珍しい。主人には少しもりの癖があり聞き取りにくいだが、何かと気を使ってくれて人柄のよさがにじみ出ている。奥さんが戻ってきて主人のことも話してくれたが、20年ほど前に生死をさまようほどのひどい交通事故に会い、九死に一生を得たこと、そのときの後遺症で言語障害が残ったこと等、問わず語り話してくれた。この宿は以前、富田川の改修工事や先刻通ってきたトンネル工事のとき、大勢の工夫が利用されてくれた賑わつたが、最近はお客も絶えてしまったと嘆いていた。加茂荘も大甚もいづれなくなってしまうだろう。そうなるこの旅もきつくなるなあ、滝尻辺りで野宿しないと先に進めなくなるのだろう。夕食は、塩気のきつい半分の焼き秋刀魚に漬物、味噌汁で本当に粗食だった。



7日目 10月14日

6時起床 6時半朝食

朝食前に屋外に出てみた。宿の南側に富田川が流れ、川向こうの山並みの空が次第に茜色に染まってくる。冷気が肺から入って全身に広がってゆく。JA横の自販機でポカリス



エットを一本買い、ついでに体操をしてから部屋にもどった。7時、御礼をして中辺路に向けて歩き出す。川沿いの県道は交通量も少なく、肌寒いくらいの冷え切った空気を切ってせせと歩く。鮎川新橋を渡り、住吉神社に参拝。境内には根回り8米という楠の大木がある。ここから手摺の無い木の橋を渡り再び国道に出た。一泊しようと思った鮎川温泉は入浴だけの施設で宿泊はできないようだ。道の駅を過ぎたところから右岸に行く。この辺りが大塔村と中辺路町の境界で、トンネルを抜けた所に「ようこそ中辺路へ」という高さ15米くらいの大看板が目目をひく。ガイド本だと、この近くに石仏群や石碑が5,6カ所紹介されているので、先ほどから注意しながら歩いているがぜんぜん見つからない。間もなく最近作られた大きな橋にさしかかる。その袂に昔ながらの郵便ポストがあり、昨日友人知人に宛てて書いた3枚の絵手紙を投函する。絵手紙よ、このすがすがしい中辺路の空気をどうか一緒に届けておくれ!旅で手紙を出すときはいつでもそうだが、消印に思い出の地名が記されるように気を配って投函場所を決めている。私のこだわりだが、こんな気持ちで相手に伝わっているかどうかは知る由もないのだが。

橋を渡り終えた左側には清姫茶屋があるが

早朝なので閉まっていた。ここまで来ると民家はなくなり、両側に迫ってきた山と、その間を縫って流れる富田川の流れを見つめながら先へ先へと急ぐ。こうして石船川と岩田川の合流点、滝尻についたのは8時半、宿から丁度1時間半の行程である。滝尻王子は橋を渡って右岸に行くが、滝尻という地名は、両川がこの地で合流し、その急流が岩石に当たって音高く流れたことに由来する。石船川を渡ったところに熊野古道館が建っていて、入ってみると古道に関する古文書類が展示されている。中辺路のガイドマップを手に取ると、近くにいた受付嬢が、「このスタンプ帖もどうぞ使ってください」と手の平に入るくらい小さなスタンプ帖をくれた。開けてみると中辺路の王子名が熊野本宮まで印刷されている。これは良い物を頂いたと、早速滝尻王子から使うことにした。古道館を出て、これから踏み入る中辺路の山並みをはるかに見やっけて大きく一呼吸、さあ、いよいよ夢にまで見た中辺路へ第一歩を踏み入れるのだ。

前述の私の毎日とは、企画書を持って企業様に飛び込み営業をする日々のことを言います。私の場合、地元が浜松市ですから、浜松や静岡に本拠を構える企業様を当たることとなります。先日は地元のFMラジオにも出演させて頂き、自身のPRをして参りました。

こうした生活が半年間続いていますが、こんなご時世ですから、期待しているほどの成果は上がっておりません。そこで、大先輩であるOBの皆様にもご相談してみようと考え、鈴木基之会長の御厚意のもと、こうして会報の紙面にお邪魔させて頂いた次第です。

企業を経営されている方々に対しましては、「会社の社会貢献・地域密着・人材育成をPRする魅力的な広告媒体」として映すことができれば幸いです。また、あくまで個人として純粋に、応援したい頑張り屋の後輩と捉えていただけるのも嬉しいことです。いずれにせよ、私自身の人間としての魅力が必要とされますが、これは直接お目にかかることでご覧になれる事ができることと存じます。ご連絡を頂ければ、即日でもすぐ伺わせて頂きます。

現役大学生がプロを目指してレース参戦するのは稀有なことでありますが、私は学生時代の思いのためにレースをしている訳でもなけれ

ば、後悔しないために今頑張っている訳でもありません。ただ純粋に自分の目標に向け、「理想の自分」だけを見つめて日々努力しております。そのためには、どんな犠牲も厭いません。

私の夢と未来を買ってください。意気込みと情熱を買ってください。皆様のご協力さえ頂ければ、私は必ず世界一のレーシングドライバーになることができます。レース界におきましては、必ずしも私は若い部類に属しませんので、残された時間は僅かです。厚かましいお願いではありますが、どうぞご協力をお願いいたします。

詳しいプロフィールはこちら  
→ [www.geocities.jp/takayuki\\_2603](http://www.geocities.jp/takayuki_2603)

是非こちらまでご連絡を  
→ [p0212035@shizuoka.ac.jp](mailto:p0212035@shizuoka.ac.jp)  
→ 090-4088-7469



# 大学

## 「アップレ講座」がスタートしました。 言語文化学科日本アジア言語文化コース助教授 小二田誠二

おかげさまで、先に報告してありました、地域連携の授業の一つ「静岡の文化」が無事終盤を迎えています。新しい試みでもあり、時間割その他、様々な困難があり、思うように受講生が集まりませんでした。その分内容は充実したのではないかと自負しています。

7月4日には、グランシップで、公開の授業成果発表会もあります。単純な調べ物の報告ではなく、新しい郷土づくりへの提案になっています。今後、報告書も作成する予定ですのでご期待下さい。

後期は、プランナー・コピーライターの平野雅彦氏による「情報意匠論」の授業です。

こちらは、社会人若干名とし、言語文化学科の1年生を対象とした授業で、昨年度同様、地域の企業をクライアントとして、文系の知を総動員して、具体的な問題解決プランの提示、実現を目指します。

様々な問題を抱えつつ、ともあれ、舟はこぎ出しました。文系の学問を地域が支えている大きな実験です。今後も皆様のご支援を、よろしくお願い申し上げます。

なお、学生スタッフが、ホームページを作っていますので、是非ご覧ください。

<http://appareshizuoka.web.infoseek.co.jp/>

## 私の夢と未来を買って下さい!

法学科4年 岡本孝之

はじめまして!人文学部法学科4年生の岡本孝之と申します。日頃より我々在学生を温かく見守って下さり、厚く御礼申し上げます。私達の通う静岡キャンパスでの生活は、深緑と強い日差しに包まれる毎日ですが、OBの皆様はお元気でしょうか。くれぐれもお体にはお気をつけて下さいね。

ところで、世の大学4年生といえ、今頃は忙しく就職活動に勤しんでいる事でしょう。しかしながら私は、幼い頃からの目標を達成すべく、彼らとは一線を画す毎日を過ごしております。「世界一のレーシングドライバー」になるのです。

日本は自動車産業をその経済の根幹に据えながら、モータースポーツ文化が全く根ざしておりません。レースと聞くと、あるいは暴走族の延長と誤解してしまう方もいらっしゃるかも知れませんが、私が志しているのは、他ならぬF1ドライバーです。

小学生の時分に彼らに憧れ、高校生で実際にレースを始めると、それは単なる「夢」ではなく、実現可能な「目標」へと移行しました。

事実、昨年は現役F1ドライバー佐藤琢磨を輩出したことで有名な「鈴鹿サーキット・レーシングスクール」を修了しております。同スクールは現在、F1への最短ルートとしてレース界では定着していますが、今年により具体的に目標に近づくべく、本田技研によるドライバー育成プログラムの核、「フォーミュラ・ドリーム」への参戦準備を進めております。



ところで、ご存知かとは思いますが、レースとは多額の資金を必要とするものです。したがって「参戦準備」とは、ご協賛頂けるスポンサー企業様を探すことに他なりません。

## 大学に入学して

法学科1年 佐治 妙

私が大学生になって二ヶ月あまりが過ぎた。受験を終えてから四月の終わり頃までは、住む部屋を探して、引っ越しをして、入学式が終わったら履修を決めて、部活を決めて…としなくてはならないことが目の前にたくさんあり、生活様式もそれまでとかなり変わったため日々を過ごすこと自体に精一杯という状況だった。自分が今どんな状況にいるのかも良く分かっていないまま、走るように一ヶ月が過ぎてしまった。

しかし五月に入って生活が落ち着いてくると、自分は様々な意味で高校生のときよりもかなり自由な生活ができるのだということに気がついた。大学生として過ごす四年間は、恐らく人生で一番自由な時期だろう。大学の講義が無い時間はいろいろなことができる。下宿で過ごす、部活動やサークル活動に励む、アルバイトをする、友達や先輩・後輩たちと騒ぐ、あるいは徹夜で遊ぶ…それらは全て自己判断にゆだねられる。大学の講義自体も、何を勉強するかを自分で選ぶ。そんな自由な日々を、ただぼーっと過ごしていたのでは勿体ない。

「せっかく、いろいろと好きなことができる四年間なのだ。何か打ち込めるものが無ければ、大学生生活がただ長くつまらない日々で終わってしまう」そう思った私は入学後すぐに

部活を始め、更に大学祭の実行委員の活動もすることにした。所属が公認の運動部ということ、委員会の会議と実務が毎週二回ずつあることで、授業・部活動・委員会と三足の草鞋(?)を履いて生活するのは自分の時間がかなり潰れるし、大変なこともたくさんある。しかしやりたいことを一生懸命やっていると実感があるので忙しくても嫌にならない。何より、同じセミナーの仲間や、部活動・委員会で一緒に活動する他の学部・学科の人々と仲良くなれるのが嬉しい。特に部や委員会は普段大学で講義を受けているだけでは接することの無い幅広い層の人々と知り合う絶好の機会である。多くの人と知り合えるということは、自分を深め成長させる機会にそれだけ多く恵まれるということでもある。そしてその機会を得るかどうかはまた自分の「自由」なのだ。

四年間は長いように思えるが、きっと矢のように過ぎていってしまうだろう。人生で一番自由な、成長の機会にあふれたこの期間を一日でも無駄にしないように日々を過ごしていきたいと思う。大学を卒業するときに「ああ、充実していたなあ」と心から思えるような四年間であることを願っているが、そうなるかどうかは自分次第なのである。

## 大学生活について

社会学科2年 中田佐知子

早いもので、私が静岡大学に入学してから一年以上の月日が過ぎました。この一年余りは、あっという間に過ぎていったように思えます。初々しい新入生の姿を見ると、自分の一年前の姿もきっとこんな感じだったんだろうなあと思ひ、一年前の今頃が懐かしく思い出されます。初めて親元を離れて一人暮らしを始め、最初はうまくやっていたらどうかという不安もありました。しかし今ではそれにも慣れ、元気に過ごしています。家事も完璧とまではいえないものの、自分なりに楽しく頑張っています。大学に入学してから、アルバイトも始めました。アルバイトでは、同

年代の人から親の世代の人まで、様々な人とともに働いて、いろいろな話ができるとてもおもしろく、また、いい勉強になっています。静岡大学は全国から学生が来ていて、みんな個性もいろいろで楽しいです。方言の違いや、食べ物の違いなど、新たな発見もあってとても新鮮です。これからも、この地に来なければ出会えなかったであろう人たちの絆を大切にしていきたいと思ひます。

大学に入学して感じたことは、何もかも自分の判断で行動するという、自由と責任です。自由に自分で決められることが増えた分、当たり前なことですが、自分の選んだことに対



する責任も増えました。しかし、自分の道を自分で決めるということはとても意義があることだと思うので、しっかり自分の考えをもって判断していきたいと思っています。大学に入ってから高校までと比べて、自分で自由に使える時間が多くなったと思います。その時間をどんなふうにするかは自分次第だと感じています。私は、だらだらと時間を過ごしてしまいがちなので、時間の管理をきちんとできるようにするというのがこれからの目標

でもあります。

二年生になると、私の所属する社会学科では八つのコースに分かれます。一年生のころとは違い、コースに分かれての専門的な授業も始まりました。今は知らないことだらけで大変ですが、これからしっかりと学んだことを身に付けていき、自分自身を少しでも成長させていきたいと思っています。これからの大学生活で、かけがえのない経験をたくさんしていけるよう頑張っていきたいと思っています。

## 学生である今、思い描く将来の夢

経済学科3年 川那部 龍司

私の夢は、将来研究者となり、より暮らしやすい社会を構築するための方向性を示すことです。そのために今は、大学院進学を目標として学生生活を送っています。それでは、なぜ私がそのような夢を選んだのか、ということについて述べていきたいと思っています。

3年前に私は、静岡大学に入学しました。当時の私は、二つの進路を考えていました。公認会計士などの資格試験に挑戦すること、もう一つは大学院進学です。

この二つのうちどれを選べばいいのか。当初、私は、よくこのことで悩みました。そして一年生の終わり頃、思い切った専門学校の先生に聞いてみました。そこで得た回答は、今後の方向性に大きく影響を及ぼしました。それは、難関の資格試験のためにダブルスクールをすることになれば大学にほとんど行かなくなり、また試験合格のために限られた教科だけをただ合格するためだけにしなければならぬというものでした。その回答を聞きき思わず私は、ためらいを感じました。それでは、大学に入った意味がありません。それに、試験合格のための手段として勉強をすることについて違和感を覚えていたからです。

なかなか方向性を決められずに悩んでいましたが、何気なく大学の図書館に行った時、その悩みは解決しました。膨大な量の書物を見ているうちにどういふわけか感動してし

まったのです。「これまでの人類の歴史において、数多くの人々が己の一生をかけて様々な学問を築いてきた。そして、そのおかげで今の世の中があるのだ。その英知の大きいことは、ここにある無数の本を見ればわかる。私は、一生のうちでどれだけその英知を知ることができるのであろうか。そして、私の学習した結果がよりよい社会の構築に貢献して、これらの仲間に入ることができれば、どれほどすばらしいことであろうか。」うまく言葉に表すことができませんが、突然このようなインスピレーションが私の心の中に浮かんだのです。このようななんとも奇妙な体験の後、私の夢は決まりました。

私は、勉強及び学問を試験合格の手段としてとらえたくありません。学問及び勉強することは、よりよい社会を築くための方向を示すものであると同時に、自分自身をより豊かにして人格を高めるものであると思います。決して試験に合格するためだけにするものではないのです。それゆえ、学び続けることを生涯目標とし、その学んだことをよりよい社会の構築のために一決して、試験合格のためにだけでなく一使いたいと考え大学院進学、そしてこのような志を胸に宿した研究者として生きていきたいと決意したのです。

## I got a thunder in this college

言語文化学科1年 小柳津孟士

勉強が中心の高校生活を送っていた自分としては、大学に対してもやや偏ったイメージを持ってしまっていて、事実そのイメージは入学後数週間は払拭できませんでした。大学に通ってくるのはみんなまじめで、教科書に乗っている知識には自信があってもなんとなく堅物な感じがある人たちがばかりだと思っていて、周りの人がやけにそういう風に見えてしまい、自分もそれに引けをとってはならないと変に力を入れてしまっていました。そのため授業、また勉強そのものに対しても、詰め込み勉強をしていた受験期と同じような考えで付き合い合おうと考えていました。受験期と同じように、決められたテキストの決められた課題を、決められたやり方で演習・暗記していくことこそが一番の勉強法だと思っていました。

そんな考え方で大学生活の最初の数週間を過ごしていた自分も、授業、むしろ授業以外の時間帯においてたくさんの人と会話をし、自分のイメージにあった悪い意味でのステレオタイプな人というのはほとんどおらず、あらゆる個性を持った人たちがばかりだということに気づいてびっくりすると同時にうれしかったです。それでいてみんな「自分」というか、自分なりの人生観や考え方を持っていて、そういう部分で「大人」で、人間的な意味で尊敬できるような人たちがいることにも

気がきました。それは何も友達に限らず、教授の方々にも言えることでした。もちろん大学の教授というのは自分の専門のことを研究しているのだから、勉学の面で非常に自由な思想を持っているのは当然だとは思っていましたが、それ以上に、勉学というものを媒介として、日常生活そのものに対してもとても自由な考えを持っていたのです。そのためどこか仙人のような生き方をしているようにすら見える教授もいますが、それも高校のころの先生に無い新鮮なものでした。

そして一番新鮮であったのが勉強する「スタイル」です。「自由・そして責任を伴う」なんていう言葉は新入生みんなが使うような無粋なものですが、本当にそのようなワードがしっかりきいていると実感しました。それはまたいい意味ばかりではありません。誰にも文句を言われない代わりに自分で何でもやらなければならないので不安になることも多々あります。

自分はこのような不安の中で大学で四年間を過ごしていきます。心配がまったく無いといったらウソになりますが、また先述したようにいろんな考えを持った友達とともに意義深い大学生活を送れる喜びのほうが断然強いので、希望を胸に気合を入れてがんばって生きていきたいと思っています。

## 新任教官紹介

社会学科 助教授 竹ノ下弘久 (たけのした ひろひさ)

2005年度より、静岡大学人文学部に着任いたしました竹ノ下弘久と申します。私は社会学を専攻していき、現在では統計分析の立場から、職業と所得を中心とした不平等構造の解明に関心があります。この領域は、しばしば社会階層・階級論とも呼ばれ、社会科学において長い間研究の対象とされてきました。私はそのなかでも、国境を越える移動をした人たちの社会階層の問題と、国民国家を単位とした全体社会の階層構造の2点に焦点をおいて、研究を進めています。両者とも様々な論点を含んでいますが、さしあたり後者に注目しますと、最近ではフリーターなどの若年層の非典型雇用問題、教育機会の不平等の問題、中年期の転職の問題など、人間の一生の中には階層にかかわる問題が随所に

存在しているといえます。

静岡市に住むのは、今回が初めての経験です。大学は山の中腹にあり、天気の良いときは、研究室から富士山を望むことができ、夜は静岡市内の夜景を楽しむこともできます。とてもいい環境の下で、教育・研究にたずさわることができうれしく思っています。



法学科助教授 吉川真理 (よしかわ まり)

今年の4月に人文学部法学科に赴任しました吉川真理と申します。約10年前に初めて就職した短大が秋田、2年前に赴任した大学が仙台、そして今回の移動が静岡と、親しい友人からは「南下政策」をとっているのではないかと揶揄されています。

出身は仙台です。大学院まで仙台にいたせいか、仙台に対する思い入れは人一倍強いと思います。しかし、静岡も豊かな自然に恵まれた素晴らしいところだと思います。研究室から望む駿河湾の風景は絶景です。また、食べ物も美味しく、初めて生しらすと生桜海老を口にした時の感動は忘れることができせん。

二ヶ月近く静岡大学で教えて感じたことは、学生がとても素直だということです。質問も

講義が終了した後はもちろんメールでも寄せてくれ、教師として冥利に尽きると思っています。このように恵まれた環境の下で教育や研究(私の専門は刑法で、特に共犯について研究を行ってきました)ができることは大変ありがたいことだと感謝しています。同窓会の皆様のご指導ご鞭撻を宜しくお願ひします。



経済学科講師 石川 文子 (いしかわ あやこ)

2005年4月から人文学部経済学科に専任講師として赴任致しました石川と申します。出身は茨城県水戸市で、黄門様で有名な水戸光圀と納豆くらいしか自慢できるものがない北関東の街です。その点、静岡には名産と呼ばれるものがたくさんあり、今では出身地である水戸のものよりも静岡のものをつい自慢したくなるほどです。また、静岡市は今年、政令指定都市となったこともあり大変活気があるという印象を受けました。

現在は、無形資産の会計上の認識・測定を主な研究課題としております。近年、経済産業省などを中心に知的財産権に関する取り組みが進められておりますが、このような知的財産について、会計上適切な処理がなされているかという点必ずしも充分とは言えないのが現状です。知的財産に関する会計基準も未整備であることから今後、早急な対応が求められる分野となっております。

これから新天地、静岡で研究・教育に励んでいきたいと考えておりますので、皆様のご指導・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

これからの新天地、静岡で研究・教育に励んでいきたいと考えておりますので、皆様のご指導・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



経済学科教授 大橋慶士 (おおはし けいじ)

静岡市の隣町焼津に生まれ、学生時代の10年間を東京で過ごしたほか、ずっと生家で暮らしています。私で4代目ですから根からの静岡県人です。したがって性格はいたって温厚かつのんびり。父親(故人)は鮮魚卸商を営んでいましたが、長男である私には家業を継がしてくれませんでした。おそらく生きがいが悪いせいか、魚屋には向いていないとの親心からだったのではと、今では大変感謝しています。

5年ほど民間企業に勤めた事もありますが、その他は教育関連の職場で働き、前職は藤枝市にある大学で教鞭をとっていました。専攻は会計監査論です。特に公認会計士の監査判断における合理性の問題を研究テーマにしてきました。最近では環境問題にも片足を突っ込み、環境会計もテーマの一つです。

趣味はDIYでのモノ造り。出来栄は別に、パソコン、木製椅子など様々なものに挑戦してきました。

このたび還暦を目前にした転職で、少し戸惑いを隠せませんが、静岡大学人文学部の発展のために、老骨にムチを打ちつつ頑張っていく所存です。



# 書籍紹介

## 松田 純『遺伝子技術の進展と人間の未来—ドイツ生命環境倫理学に学ぶ』 (知泉書館 2005年2月 260頁 2,800円)

生命科学はわれわれをどこに連れて行くのか？ 激しい論争の狭間で、その意味を問う。ヨーロッパの状況を踏まえ、クローン胚作成、ES細胞、遺伝子情報、人体改造など急速な技術の進展が生命倫理に突きつけた問題を考察。

### 【目次】

1. いのちをめぐるドイツの激論— 2001年から2004年へ
2. 「人間の尊厳」の意味内容
3. ヒト胚の地位をめぐる
4. 遺伝子情報の取り扱いについて
5. 人体改造—増進的介入(エンハンスメント)と<人間の弱さ>の価値
6. 生命政策の合意形成にむけて
7. Biosthics(バイオエシックス 生命倫理学)からBioethik(バイオエティック 生命環境倫理学)へ(付論) 穏健な生命中心主義—フリエド・リケンによるエコロジカルな倫理学の基礎づけ

『週刊 読書人』2005年5月20日号に書評掲載。(松田 純)

## 楊海英『チンギス・ハーン祭祀— 試みとしての歴史人類学的再構成』 (風響社 2004年12月 358頁 2,500円)

本書は著者が今までに積み重ねてきた現地調査と文献資料に依拠して書かれたものである。現地調査では叙事詩的に「歴史を語る」伝統を持つモンゴル人から口伝資料を集め、文献は民間に伝わる豊富な手写本を指している。この両方の資料から政治祭祀として今日まで維持されてきた「チンギス・ハーン祭祀」

の実態を報告している。その結果、モンゴルなど北・中央アジアの遊牧民にとって、チンギス・ハーンは単なる歴史上の人物ではなく、遊牧民の歴史そのものを創り上げ、かつ、今日においても歴史認識の中心に据えられている存在であることが解明されている。(楊海英)

## 楊海英『モンゴル草原の文人たち— 手写本が語る民族誌』 (平凡社 2005年3月274頁 2,400円)

遊牧民といえば、戦闘的かつ破壊的というようなイメージが一般にはある。モンゴル人といえば、筋肉質で相撲しかとれないという見方も巷にはある。あるいは遊牧民は「無欲で高貴」な人々だ、と描く作家もいる。本書はそのような固定観念を打破する目的も兼ねて、草原の知識人たちが近現代史のなかをど

のように生きて、どんな役割を果たしたかをまず示したかった。さらにもう一つ、今日の人類学はどのように文献(手写本)を扱うのか。現地出身人類学者にどのような使命感が課されているのかを議論している。尚、本書の出版には2004年度人文学部出版助成金が使われている。(楊海英)

## 小沢隆一『はじめて学ぶ日本国憲法』 (大月書店 2005年3月 215頁 1,800円)

このたび、人文学部より出版助成もいただき右の本を出させていただきました。社会科学では老舗の出版社ですが、法律とりわけ憲法の本はめずらしいと思います。でも、この出版社から私としても最初の「憲法の本」を出させていただいて光栄です。「社会科学としての憲法学」を、私なりの言葉で語ったつもりでもあります。この本は、法学科の1年生向けのテキストとして使っていますが、大月書店の「はじめて学ぶ…」シリーズの一冊ですので、同窓生の皆様の「市民としての憲法学習」に

も役立てていただけるのではないかとひそかに期待しています。今にぎやかな改憲論、とりわけ9条改憲の最新の動きも、私なりの視角から分析し、21世紀の憲法のありかたも展望しています。「戦後60年」目の静大で、鈴木安蔵先生以来の伝統をどう引き継ぐかという問題意識を持ちつつ書きました。そうした私の「気負い」がどの程度実を結んでいるか、是非ご一読の上、忌憚のないご意見をお待ちしています。(小沢隆一)

## 橋本誠一『在野「法曹」と地域社会』 (静岡大学人文学部学術叢書1) (法律文化社 2005年3月 285頁 6,300円)

拙著は、静岡県の弁護士・鈴木信雄を人物史的に分析した第一部と、俗に「三百屋」などと称される非弁護士を近代弁護士史の中に実証的に位置づけることを目的とした第二部とで構成されている。ともに静岡県域を研究フィールドとして得られた地域史研究の成果を全体史的な視点から分析・評価したものである。

筆者の専門とする法制史は、本来、制度史に強い関心を持つ学問分野である。それに対し拙著は、分析対象を「法と社会の相互規定関係」に設定し、法----具体的には弁護士法制----の在り様をより生き生きと描き出そうと試みた。大げさに言えば、「法制史と法社会学の融合」を意図したものである。その試み

が成功したか否か、読者の皆さんの判断をお待ちしているところである。

ところで、院生時代、恩師・故熊谷開作先生(大阪大学名誉教授)から、つねに「分かりやすい文章を書け」という指導を受けた。その点でとくに嬉しかったのは、何人かの読者から、「読みやすい」「分かりやすい」という感想をいただいたことである。これなら、師匠に合格点をもらえるかもしれない...

なお、以下のURLに拙著の「目次」が掲載されている。ご覧いただければ幸いです。(橋本誠一)  
<http://www.hou-bun.co.jp/Mokuroku/hon/02795-X.html>

## 個人情報保護

会員の大切な個人情報は、当同窓会の活動以外には一切使用致しません。第三者に開示・漏洩することは一切ありませんのでご安心下さい。尚、会員データベースからご自分の個人情報データの削除をご希望される方は、下記の『変更データ個人票』またはホームページ『www.gaku.org』から事務局までお申し出下さい。

### 会員の皆様へお願い

次の場合には必ず、「変更データ個人票」を同窓会事務局までお送りください。

- ・転勤、引越等により、住所が変更になったとき。
- ・自宅の電話番号が変わったとき。
- ・結婚等により、姓が変わったとき。
- ・勤務する会社等が変わったとき。
- ・その他会員名簿の記載事項に変更が生じたとき。

住所等の変更は、速やかにこの用紙に記入の上事務局へお送りください。

静岡大学文理・人文学部同窓会		全部で _____ 件		* データ作成者名	
変更データ個人票		No. _____		電 話 ( ) _____	
変更データ入手日		本部受取日		データ更新日	
年 月 日		年 月 日		年 月 日	
個人コード番号			連絡事項		
* 文理・人文学部		回 昭和・平成		年卒業 専攻	
ふりがな		ふりがな			
* 氏 名		新 氏 名			
* 名簿の 氏名 住所 電話 勤め先 支部 の変更(該当するところへ○を付ける)					
新 住 所		〒		新 勤 め 先 会 社 名	
新 電 話		( ) _____		電 話 ( ) _____	

\*は必ず記入のこと。  
訂正検索の利便のため、卒業回、卒業年、専攻学科を必ず記入してください。

### 静岡大学文理・人文学部同窓会事務局

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836 静岡大学共通教育A棟  
TEL・FAX 054-238-5148